

令和 5 年度 県立小瀬高等学校自己評価表

目指す学校像	●共有した教育理念 生徒を主語にした教育 伴走者（支援者）として関わる ◆目指す生徒像 ・自分を大切にする人（自分を肯定的に捉える、自己調整する、自分の幸せに向かう） ・他者とつながる人（自分の考えを伝える、相手の話を受け止める、他者と協働する） ・地域・社会に関わる人（社会課題に関する知識・理解、見通しを立てて行動する、挑戦し続ける）			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
・3つのコース制により、生徒の興味及び進路希望に応じた教科指導を行うことができた。更に充実させるためには、コースにかかわらず基礎学力の向上を図る必要がある。 ・進路支援においては、1年次から計画的な指導を行った結果、就職・進学とも全員が希望する進路を実現することができた。今年度も生徒一人一人に寄り添いながら、それぞれが進路を決定できるよう支援していく。 ・全体的に落ち着いた生活ができている。スマートフォンなどの通信機器の適切な使い方とバイク通学者等へ安全教育を徹底し交通事故防止に努める。また、特別な支援を要する生徒への組織的なサポートを行っていききたい。 ・生徒の主体的な活動を重視し、生徒会を中心に行事等を改善実施できた。球技大会や体育祭では生徒会や実行委員会が中心となり運営することができた。学校の活性化を図るため、行事の充実や部活動加入を促したい。		教科指導・学習指導 授業力の向上 基礎学力の向上 体験的・探究的な学びの充実 小規模化に対応した教育活動の充実 ICT活用の推進	・日々の授業において、生徒の力を伸ばすための取り組みを継続し、高い授業力を目指す。 ・漢字、数学、英語の小テストを効果的に実施して学習意欲と基礎学力を向上させる。 ・「総合的な探究の時間」を中心に各教科等で体験的な学び・探究的な学びを充実させる。 ・生徒が各種技能審査等に挑戦し、合格できるように指導する。 ・タブレットや電子黒板の活用を推進するとともに、オンラインを含め授業の進め方など、ICTの活用を研究し、授業力の向上を図る。	4
		授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値2.7以上を目指す。	4
		進路支援 希望進路の実現 体験的な学習の充実	・多様な生徒に応じた支援をすることで、多様な生徒の進路希望を100%実現させる。 ・キャンパス見学、企業見学、インターンシップなどの体験的な学習を通して、進学や就職への理解を深めながら、社会に適応できる力を育む。	4
		生徒支援 規範意識の向上、あいさつの励行 生徒のメンタル支援 すべての生徒に居場所のある学校づくり、安心・安全な学校づくり	・あいさつを励行し、規範意識を醸成する。 ・成人年齢引き下げの時代にあった市民教育や主体性の育成に努める。 ・キャリア教育の視点を踏まえた生徒指導の推進を図る。 ・生徒支援を軸にした、柔らかな生徒指導の充実と対応に努める。 ・SC、SSWとの連携の充実、図書館分室の活用を図る。	4

別紙様式2（高）

・昨年度の連携中学校からの入学者は 22 人であり、前年度より微増した。引き続き魅力ある学校作りを促進するとともに、連携中学校及び近隣の小中学校への PR を強化し、本校への志願者を増やすことが急務である。 ・ICT の活用については、全学年タブレットを入学時に購入し所有しているため、実践的な研究を進め、効果的な活用についてさらに検討し、電子黒板やタブレット等の活用を図りたい。		特別活動 生徒の主体性の育成 生徒の社会参画意識の醸成 探究的な学びの推進	・生徒会や部活動の自主的な運営を支援し、主体的に生きる力を育成及び社会参画意識の醸成を図る。 ・社会で必要とされるスキルの育成やキャリア教育の視点を踏まえて、探究的な学びを推進する。 ・部活加入率や継続率を向上させ、部活動をより活性化させる。	4		
		連携型中高一貫教育 連携型中高一貫教育の推進	・明峰中学校との新たな中高連携を模索し、地域の子どもを育み、地域と共にある学校づくりを推進する。 ・情報発信・広報を積極的かつ効率的に行うことで、本校の認知度を高め、志願者増につなげる。	4		
		働き方改革 働き方改革の推進 業務の適正化と組織内部の効率性の向上	・週一回実施の授業後下校・定時退勤の実施と共に、各自が業務の質を保ちつつ、効率化の工夫の継続を図る。 ・業務の適正化を図り、組織内の連携を機能させ、効率性・生産性を高め、カリキュラム・マネジメントの充実を図る。	3		
三つの方針		具体的目標		評価	次年度(学期)への主な課題	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 地域活動のリーダーとして地域の貢献し社会で活躍できる人財の育成	3	4	キャリア教育を意識した特別活動及び探究学習において、生徒の主体的な取り組みを強化する。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 人間関係能力の育成を図るとともに、コース選択を取り入れた教育活動による幅広い進路希望の実現	4		福祉コースのデュアルシステムによる介護現場実習、特進コースの進学対応を強化する。	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 人とのつながりや地域の絆を大切にしながら、主体的に生きようとする生徒	4		地域の中学校を中心に市教育委員会、地元の産業との連携強化を図る。	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題	
国 語	・基礎学力の向上	・授業の工夫改善及び定期的に漢字テストを実施し、生徒が漢字や熟語への興味関心を高め、日常生活で適切に用いることができるよう支援する。 ・読む・書く・聞く・話すの4分野をバランスよく指導し、特にコメント力・応答力・聞き取る力が向上するように質疑応答やリスニングなどを取り入れた授業を展開する。		4	4	漢字テストを8回実施し、漢字力・語彙力の向上に努めた。国語力を向上させる手立てを試行錯誤し、指導に取り入れていきたい。

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式 2 (高)

	・情報選択能力と問題解決能力の向上	・生徒が主体的に学び合えるよう、ICT を活用し、プレゼンテーションの機会を設け、作品の構成や情報の編集を通して情報選択能力や問題解決能力の向上を図る。	5		「コメント力・応答力・聞き取る力」を向上させるための ICT 機器の有効な活用法を思案し、実施することができた。
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 2.7 以上を目指す。	4		概ね達成することができた。
地歴・公民	・分かりやすい授業の展開	・生徒に興味・関心を抱かせるため、プリントや画像・映像・新聞・ICT (タブレット等) を多く活用しながら授業を展開する。	5	4	・教科書以外にも日常的なニュースを取り入れることで、現代における社会の諸課題を考える視点を身に付けることが課題である。
	・基礎・基本・一般常識の育成	・身近なニュースや問題、社会人として必要とされる知識を育成し、社会人としての資質を身につけさせる。主権者教育にも力を入れていく。	4		
	・メディア・リテラシーの育成	・問題の捉え方や解答を多くの生徒と共有させ、多様な考え方を理解させる。 ・ICT や視聴覚教材を通し、考えることの面白さを伝え、考察する態度や能力を養う。	4		
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 2.7 以上を目指す。	4		
数 学	・基礎的な知識・技能の習得	・基礎的な計算力を身に付けさせるために、年間 4 回の小テストの実施、その前後でプリント学習や追試験での指導をする。年間を通し多くの問題を解かせ、基本事項を確実に習得する機会を十分に与える。	5	4	・小・中学校レベルの基本的な計算問題を解く力を習得させる。 ・既習事項を活用して問題解決する力を育成する。 ・ICT を効果的に取り入れるためのさらなる工夫を検討し、授業改善に繋げる。
	・思考力・表現力の育成	・用語の定義を丁寧に説明する。定理や公式の証明を仮定から結論に至るまで示し、論理の重要性や良さに気づけるよう工夫する。	4		
	・数学に対する関心や態度の醸成	・問題の捉え方や解答を多くの生徒と共有させ、多様な考え方を理解させる。 ICT や視聴覚教材を通し、考えることの面白さを伝え、考察する態度や能力を養う。	4		
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 2.7 以上を目指す。	4		
理 科	・理科への関心の深化と、科学的思考力の養成	・身近な事物や現象を科学的に捉えられるように、日常生活に関する現象や物質などを取り上げ、ICT や視聴覚教材の効果的な活用を工夫する。 ・実験や観察を多く取り入れ、結果の予測をさせたり、結果を考察させたりすることで科学的な思考力を伸ばす。	3	4	・科学的に思考するための基礎学力を定着させる。 ・ICT や視聴覚教材の効果的な活用。

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式 2 (高)

	・基礎学力の定着	・小テストや課題、レポート等の指導をとおして、一時的な知識の定着だけでなく、継続的な理解の定着を図る。	4		・生徒の授業満足度が向上するよう授業改善の努力を継続する。
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 2.7 以上を目指す。	4		
保健体育	・見方や考え方を働かせ、運動の特性や社会生活における健康・安全についての知識及び技能の育成	・運動や健康に関するの適正や自己の適性等に応じて、「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方の中から、知識や技能を身につける。	4	4	・体力向上にむけた補助運動や補強運動の工夫。 ・評価規準の明確化。 ・運動が苦手な生徒への手立ての工夫。
	・運動や健康について、自他や社会の課題を発見し、他者に伝える力を養う。	・各領域特有の動きや技、自他の課題改善のポイントを発見し、伝える力を身につけるために、話し合い活動やタブレット等を活用していく。	3		
	・健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	・体育では、体力向上のための運動量を確保し、補助運動等の活動から継続的に運動を行う習慣を身につけ、心身の健康の保持増進を図る。 ・保健では、自らの健康管理を適切に管理・改善していくための知識技能を身に付け、実生活に役立てていく。	4		
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 2.7 以上を目指す。	4		
芸 術	・芸術を愛好する心情の育成と豊かな情操の醸成	・音楽については、音楽の基礎となる知識や技術などを習得させ、実際に活用できる能力を身に付けさせる。	4	4	・各科目について、基礎知識や技能を身に付けるための工夫。 ・表現力や想像力等を意識させて幅広い創作活動を継続していく。
		・美術については、課題を多面的に設定して、幅広く創作活動を体験することで、感じる力、工夫する力、表現する力を養う。	4		
		・書道については、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。	4		
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 2.7 以上を目指す。	4		
外国語	・基礎学力の定着	・ICT の活用を含め、基礎学力の定着を図るための指導を工夫する。	4	4	英検合格につながる学習支援。基礎学力の差を考慮した上で、ICT などを効果的に活用し、学力の定着に
	・英語検定受検の奨励と支援	・英語検定試験の受験を勧め、その指導を通じて英語力の向上を図る。	4		

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式 2 (高)

	・コミュニケーション能力の向上	・英語学習を楽しみながら、コミュニケーション能力の向上を図る。	5		つながるよう工夫する。
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 2.7 以上を目指す。	5		
家 庭	・家庭科目に対する生徒の意欲・関心の増進	・生活に沿った題材、事例を取り上げ、ICTや視聴覚教材の効果的な活用・教材の工夫に努め、興味・関心をもって学習できるようにする。	4	4	実験・実習を通じた体験的な学びや、ペアワーク、グループワークなど生徒の学び合いの場面を増やし、授業への意欲、関心が高まるよう工夫する。
	・基礎力の定着	・課題等を定期的に提出させ、基礎学力の定着を図る。 ・実験・実習等を行うことにより、科学的・体験的に学び、基礎知識と技能を身に付けさせる。	4		
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 2.7 以上を目指す。	4		
情 報	・情報社会と人との関わりの理解	・効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について、理解を深め技能を習得すると共に、情報社会と人の関わりについて理解を深める。	4	4	・情報モラルの大切さを意識させて情報機器を利用させる。 ・各種検定試験の合格率をあげることを目指す。
	・問題の発見・解決と情報、情報技術の活用	・事象を情報とその結びつきをして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切に効果的に活用する力を養う。	4		
	・情報社会に主体的に参画	・情報と情報技術を適切に活用し、情報社会に主体的に参画する態度を養う。	4		
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 2.7 以上を目指す。	4		
商 業	・商業科目に対する生徒の意欲・関心の高揚	・ビジネスの諸活動に必要な文書の作成等を通し、パソコンに対する知識や表現能力を高める。 ・文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等を使い、一人一人の技量に応じた技術の習得を図る。	4	4	ビジネスに関する知識や検定で得た技術を実社会で活かせるように、知識と技術を更に高める指導をしていく。
	・検定試験の合格率アップ	・情報処理検定やビジネス文書検定、電卓検定等において、早い時期から意識付けをして合格を目指す。	4		
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 2.7 以上を目指す。	4		

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式 2 (高)

福 祉	・福祉に関する興味・関心の向上	・福祉は介護分野だけではないことに気付かせ、幅広く学ばせるとともに、県や市の資料を活用し、地域についても興味・関心をもって学習に取り組めるようにする。	4	4	新聞記事より社会問題を提供したり、行政の活用の仕方を紹介する。
	・福祉に関する基本的知識や技術の習得	・单元ごとに章末問題や小テストを実施し、知識や技術の習得を確認する。 ・授業欠席時や知識・技術が合格基準に達しない場合は補講を実施する。	4		決められた時間は、習得出来るようにする。(継続)
	・職業教育として質の高い福の担い手を養成	・コロナ禍におけるデュアルシステムの課題を検討し、整備していく。また、より専門的な学習や現場実習を通し、専門職種としての意識を高める。 ・現場及び実生活で活用できるよう、専門スキルを身に付けさせると共に、人との関わりを通し、豊かな心や人間性、社会性を育てる。	4		見学実習でなく基本的なケアは指導者と相談しながら様子をみながらできるよう勧めていく
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値2.7以上を目指す。	4		新聞記事より社会問題を提供したり、行政の活用の仕方を紹介する。
教 務	・基礎学力の定着	・各教科・各学年が一体となり、漢字テスト・数学小テスト・英語小テストを実施するとともに、事前・事後指導を徹底することで、基礎学力の定着と向上を目指す。 ・各種技能審査の受検を促し、合格に向けて支援する。 ・教師間の相互研修を促進し、体験的・探究的な学びを充実させ、生徒が自ら学ぼうとする指導方法の確立を支援する。	4	4	・小テストを継続的・効果的に利用し、基礎学力の定着を図る。 ・教師間の相互研修を促進し、生徒の授業満足度を高めるための授業改善を支援する。 ・ICT の利用を更に促進し、授業力の更なる向上を目指す。 ・行事の見直しを図り、更に参加しやすい PTA の在り方を検討していく。
	・教員の校務の実践の支援	・授業支援のため、ICT化を図る。タブレット及び電子黒板の利用を促進する。 ・授業実践のための機器・教材・必要物品の充実・補充を行い、授業力の向上を支援する。	4		
	・PTA・後援会活動の充実化	・各行事の内容を充実させると共に、案内を迅速に行い、参加しやすいような働きかけをする。 ・保護者や後援会組織との連携を密にし、学校行事等において協力し合える体制をつくる。	5		

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式 2 (高)

生徒支援	・ 基本的な生活習慣と生活態度の確立	・ 挨拶の励行やスマホ等の使い方など規範意識の向上を図る。 ・ SSWやSCを活用し、支援を軸とした生徒指導の充実を図る。	4	4	・ 生徒指導規程の見直し ・ 施錠や貴重品管理の徹底等、盗難防止への取組 ・ SNS の使い方等ネットリテラシー教育の充実 ・ 安全点検等の強化 ・ 安全教育の工夫と改善
	・ 問題行動の未然防止、早期発見と早期対応	・ いじめ調査アンケートや校舎内外の巡回指導等を実施し、問題行動の未然防止と早期発見に努める。 ・ スマホやネットの安全利用について、ホームルームや集会等を通して繰り返し指導する。	4		
	・ 交通事故の未然防止と交通マナーの徹底	・ 定期的にバイク点検、登校指導を行い、安全に対する意識の向上と事故の未然防止を図る。 ・ 道路交通法の遵守・徹底を図る。	4		
	・ 校内環境の整備	・ 毎日の清掃を丁寧に行うことにより、校内の環境美化を図る。 ・ 毎月安全点検を行い、修繕が必要な箇所は迅速に対処することで、安全管理の徹底を図る。	4		
	・ 生徒の健康観や安全能力を育成	・ 「保健だより」や保健関係資料等を発行及び掲示し、心身の健康の保持増進や感染症予防等の情報発信を定期的に行う。 ・ 様々な災害を意識した避難訓練を地域と連携して実施することで、安全能力の育成を図る。	4		
進路支援	・ 基礎学力の向上と学習の習慣化	・ 放課後学習を実施し、基礎学力の定着を図る。 ・ 模擬試験を活用し適正な進路選択をする。資格試験を意欲的に取り入れスキルを上げる。	4	4	資格試験の取得について、生徒だけでなく保護者にも、資格取得の利点について周知し、積極的な取得を促す。 各教科担当教員間で、受験に関する情報共有を図り、生徒の学習支援、進路支援に生かす。
	・ 進路希望の実現	・ 個別指導・進路相談を通して、それぞれの生徒に合った進路を実現させる。 ・ 公務員試験対策の研究、国公立大進学支援の研究を行い、指導に生かす。 ・ 職場見学やインターンシップなどの体験的な学習を行う。また、オープンキャンパスへの積極的な参加を促す。	5		
	・ 早期離職の防止対策	・ 生徒や保護者に対し、適切な情報や資料を提供するとともに、職員間での進路情報を共有する。 ・ 「進路のてびき」の発行や外部機関紙の提供をしながら、個々の生徒に応じた指導を行う ・ 応募前職場見学を複数実施し、生徒に適した職場への就職を斡旋する。	4		

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式 2 (高)

特別活動	・部活動の活性化	・部加入率と継続率を高めるため、教員同士が協力し部活動の指導にあたる。 ・校内放送や本校のホームページを有効に活用し、広報活動に努める。	4	4	・部活動への積極的加入と活動の継続。ホームページ等を活用した成果報告。 ・生徒会による自主的な活動の支援と学校行事の工夫。 ・総合的な探究の時間における地域や他校との連携と、活動全般を通してのキャリア意識醸成。
	・学校行事の充実	・既存の方法にとらわれず、全校生徒が主体的・意欲的に取り組める行事運営を工夫する。 ・それぞれの生徒が活躍できる機会を多様に設ける。	5		
	・生徒会活動の活性化	・学校行事の目的を理解し、生徒が自主的に活動できるための働きかけを行う。 ・生徒が自ら挑戦できる機会を増やし、リーダーとしての資質を高める。	5		
	・総合的な探究の時間の充実	・実施の目的を生徒と共有し、活動を通して自らの成長を認識できるよう働きかける。 ・学校全体で生徒の活動支援を行うと共に、地域との連携も充実させる。	5		
	・キャリア・パスポートの活用	・生徒個々の学びや成長を整理して積み重ね、社会的・職業的自立に向けてキャリア発達を促す。	3		
第 1 学年	・基本的生活習慣の確立	・遅刻、早退、欠席をしないよう継続的な指導をする。 ・あいさつ、返事、言葉遣い、服装、頭髪をきちんと整える。	5	4	・基本的生活習慣の継続的な指導をする。 ・進路意識の啓発と基礎学力の向上に努める。 ・探究の活動等における ICT 機器（タブレット等）のさらなる有効活用について検討する。
	・学習の習慣化、基礎学力の向上	・授業に臨む姿勢の指導を継続的に行う。 ・放課後学習を実施し、基礎学力の向上を図る。 ・基礎学力定着のため、生徒に対し計画的な学習指導を行う。 ・宿題・課題は必ず提出させる。	4		
	・進路意識の高揚	・LHR やインターンシップ等を活用し、進路意識の啓発を行う。	4		
	・学校生活の活性化と社会性の定着	・学校行事や部活動への主体的・積極的な参加を促す。 ・自己の役割を自覚させるとともに集団における健全な人間関係を築かせ、社会性が身に付くようにする。	5		
	・ICT 活用の活性化	・電子黒板やタブレット、教育用プラットフォーム（Classi）の有効活用に努める。	5		
	・働き方改革	・業務の効率化と平準化を図る。	4		

※評価基準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式 2 (高)

第 2 学年	・ 基本的生活習慣確立と社会性の向上	・遅刻、早退、欠席のないよう継続的な指導をする。 ・礼儀作法(言葉遣い、あいさつ、返事、服装等)をきちんとさせる。	5	4	・基本的生活習慣の継続的な指導。 ・早期に進路意識を高める。 ・就職試験等に向けた基礎学力の定着。 ・自己PRができるコミュニケーション能力の育成。
	・ 学習の習慣化、基礎学力の向上	・授業に臨む姿勢の指導を継続的に行い、基礎学力の向上を図る。 ・基礎学力定着のため、生徒に対し計画的な学習指導を行う。 ・提出物完成度向上及び提出徹底を図る。	4		
	・ 進路意識の高揚	・ 進路講話やインターンシップを通じて、進路意識の啓発を行う。	5		
	・ 学校生活の活性化と問題行動の未然防止	・ 学校行事や部活動への主体的・積極的な参加を促す。 ・ 日頃より生徒とのコミュニケーションを深め、問題行動の未然防止に努める。	5		
	・ ICT活用の活性化	・ 電子黒板やタブレット、教育用プラットフォーム(Classi)の有効活用に努める。	4		
	・ 働き方改革	・ 業務の効率化と平準化を図る。	4		
第 3 学年	・ 基本的生活習慣確立と社会性の向上	・遅刻、早退、欠席のないよう継続的に指導する。 ・言葉遣い、礼法、服装、頭髪をきちんとさせる。	4	4	・OTの時間を使って、学年全体で有意義な進路指導ができた。 ・タブレットを使用し、福祉科の授業の映像を提供したり、課題提出などを行うことができよかった。反面故障して、いつも決まった生徒が借りに来ていたのが課題である。
	・ 学習の習慣化、基礎学力の向上	・授業に臨む姿勢の指導と課題提出を徹底させる。 ・OT、放課後の継続的学習を行う。成績不振者への個別指導を行う。	4		
	・ 学校行事等への積極的参加	・ 学校行事等の目的・意味を十分理解させ、3年生のリーダーシップを発揮させる。	5		
	・ 適切な進路選択とその実現	・ 生徒・保護者との連絡・相談を密にし、適切な進路の選択を図る。 ・ 学年全体で進路指導にあたり、指導と事務処理に遺漏の無いようにする。	5		
	・ ICTの活用	・ ミライタッチやタブレット、教育用プラットフォーム(Classi)を有効活用する。	5		
	・ 働き方改革	・ 業務の効率化と平準化を図る。	4		
連携型中高一貫教育	・ 交流事業の充実	・ ふれあいキャンパス等の交流事業やスポット的授業、相互授業参観、部活動の連携を通して、生徒相互や教師と生徒の積極的な交流を推進する。	5	4	交流事業の時期や実施方法や教科における積極的な連携について検討する。
	・ 地域貢献活動の充実	・ 連携型の中高一貫教育を通して、「地域の中で歩み、地域に貢献できる生徒」を育成する。	4		中高一貫教育の在り方を見直し、さらなる地域貢献の方法を検討する。
	・ 中高一貫教育の推進	・ 少子化に対応した連携スタイルの構築し、効果的な広報を通して志願者の確保を図る。	4		中学生や保護者のニーズを捉え、効果的な広報活動につなげる。

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式 2 (高)

※ 評価基準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである
1：ほとんどが不十分な達成レベルである

※評価基準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである